

# 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

( 3 年計画の 2 年目)

## 1. 研究課題

日本宗教史像の再構築

Reconstructing Japanese Religious Histories

## 2. 研究代表者氏名

大谷栄一

Eiichi Otani

## 3. 研究期間

2014 年 04 月 - 2017 年 03 月 (2 年度目)

## 4. 研究目的

近年、日本宗教史の研究は新たなステージを迎えている。近代仏教史を例に挙げれば、従来の研究が更新されつつある。長年、この分野を牽引してきた吉田久一、柏原祐泉、池田英俊らの研究に多大な実証的成果を認める一方、宗教史的事実の位置付けに一定の「偏向」があることも徐々に明らかとなってきた。たとえば、神智学協会会長・オルコットの来日（明治 22 年）という出来事の宗教史的意義が検討されることはまれだった。しかし実際には、来日したオルコットは各地で大歓迎され、一種の仏教リバイバルを引き起こした。ここに、「神智学」のオカルティズムに対する近代仏教研究側の予見があったことは認めざるを得ない。すなわち、近代主義的な「宗教」観に基づく事例の取捨選択が強固に作用していたのである。こうした既存の宗教史研究の「近代主義的」なバイアスを解きほぐし、それによって不可視化されていた事象に光を当て、新たな日本宗教史像を構築していくことが本研究の目的である。

The purpose of this research is to undo the “modernist” assumptions in the accepted view of the history of Japanese religion, unearth the phenomena that were hitherto hidden by that bias, and construct a new view of the history of Japanese religion. Historical views of Japanese religion suffered from various limitations, including the assumptions associated with the modern concept of “religion,” the grip of the nation-state, the fragmentation of research along sectarian lines and so on. Now it has become necessary for us to bring these restrictions out into the open and search for new ways to overcome them. In order to achieve our purpose, we are advancing along two tracks. First, by

subjecting the history of Japanese academia to methods from intellectual and social history, we aim to uncover the hidden assumptions that formed and sustained the accepted view of the history of Japanese religion. Second, by bringing together empirical research from various disciplines, such as the history of religion, history, sociology, folklore, we aim to throw light on the perspectives and omissions in the accepted view of the history of Japanese religion. In this way, we aim to unite the theoretical, metahistorical approach, and the empirical approaches to Japanese religion, and thereby create a space for productive dialogue that allows us to open up new directions.

#### 5. 本年度の研究実施状況

2015年度はモダニティ／モダニゼーションと日本宗教史の関わりを中心に研究会を開催した。複製技術、マスメディア、国民国家、世俗化などをテーマとしたワークショップを企画し、12月にはヨガやレイキといった身体修養技法が宗派や国境を越境し、不断に再創造される現象について国際シンポを開催した。このほか、人文研アカデミー「日本宗教史再入門」や『人文学報』の特集号（108号）などにより研究成果を公開した。

#### 7. 本年度の研究実施内容

- 2015-04-25
  - シカゴ大学と私の日本研究 発表者 ケヴィン M ドーク ジョージタウン大学
  - 発表者
- 2015-07-12 第9回研究会 ワークショップ「「異端的宗教活動」の近世: キリシタン・かくれ念仏・民衆宗教」
  - 近世日本の「邪正」と異端的宗教活動 発表者 大橋幸泰 早稲田大学
  - 近世日本の宗教構造—国家権力と異端的宗教活動をめぐって 発表者 井上智勝 埼玉大学
  - かくれキリシタン研究から 発表者 中園成生 平戸市生月町博物館・島の館
  - 「淫祠教」的救済世界の潜伏化と民衆の暴力 発表者 渡辺順一 金光教羽曳野教会
  - 司会 永岡崇 日本学術振興会
  - 司会 日沖直子 南山宗教文化研究所
- 2015-07-25 第10回研究会 ワークショップ「近代日本のメディアと宗教」
  - 共同研究「近代宗教のアーカイヴ構築のための基礎研究」の成果と課題 発表者 大谷栄一 佛教大学

- 近現代日本の「宗教とメディア」研究—動向と課題 発表者 碧海寿広 東洋大学東洋学研究所
- 女性雑誌の時代—『新女界』に見るキリスト教とジェンダー 発表者 村山由美 南山宗教文化研究所
- 大正期文学における親鸞像の変容 発表者 大澤絢子 東京工業大学大学院 DC
- 無声映画と宗教教団—真宗大谷派僧侶・沼法量を中心に 発表者 中川剛マックス 愛知学院大学大学院
- コメンテーター 岡田正彦 天理大学
- 司会 岩田真美 龍谷大学
- 2015-08-18 特別研究会「神智学研究サマーセミナー」
  - 神智学が上海共同租界で行った教育事業：ベサントのいないベサント・スクール 発表者 荘千慧 大阪大学大学院 DC
  - 鈴木大拙夫妻の大乗ロジ再考 発表者 吉永進一 国立舞鶴高等工業専門学校
- 2015-09-12 第11回研究会 ワークショップ「身体と政治：近代日本の霊的な心身技法と国家論」
  - 『耶蘇教審判』にみる本田親徳のキリスト教認識 発表者 並木英子 国際基督教大学
  - 陽明学の近代化における身体が行方 発表者 野村英登 二松學舎大学大学非常勤講師
  - 岡田式静坐法にみる国家観—身体・技法・霊性— 発表者 栗田英彦 日本学術振興会
  - 霊術・身体から宗教・国家への跳躍—三井甲之の手のひら療治— 司会 塚田穂高 國學院大學
  - コメンテーター 永岡崇 日本学術振興会
  - コメンテーター 師茂樹 花園大学
  - 司会 吉永進一 国立舞鶴高等工業専門学校
- 2015-10-17 第12回研究会 ワークショップ「聖なるものとその複製」
  - 複数性と一点性—遺影写真のコミュニケーション— 発表者 佐藤守弘 京都精華大学
  - 心霊写真と筆跡学 発表者 浜野志保 千葉工業大学
  - コメンテーター 橋本一徑 早稲田大学
  - コメンテーター 飯倉義之 國學院大學
  - コメンテーター 吉永進一 国立舞鶴工業高等専門学校
  - 司会 菊地暁

- 2015-10-24 第13回研究会 ワークショップ「寺社組織の近世化を問い直す」
  - 当山派修験寺院と天台宗の本末関係 ―近江国甲賀郡飯道寺を事例に― 発表者 藤田和敏 大本山相国寺
  - 近世における宗教の世俗化を考える 発表者 幡鎌一弘 天理大学
  - 司会 松金直美 真宗大谷派教学研究所
  - 司会 上野大輔 慶應義塾大学
- 2015-12-12 International Workshop “Modernization, and Spiritual, Mental and Physical Practices: From Yoga to Reiki” 1st day
  - Shavasana: Modern Relaxation Techniques and Yoga 発表者 BAIER, Karl University of Vienna
  - The Spiritual Body in Early Twentieth-Century Transnational Yoga 発表者 SINGLETON, Mark SOAS, University of London
  - Yogi Ramacharaka: Physical Culture, Metaphysical Tradition, and Cultural Influence 発表者 DESLIPPE, Philip University of California, Santa Barbara
  - コメンテーター 伊藤雅之 愛知学院大学
  - 司会 GAITANIDIS, Ioannis 千葉大学
- 2015-12-13 International Workshop “Modernization, and Spiritual, Mental and Physical Practices: From Yoga to Reiki” 2nd day
  - Evangelizing the Body: the Catholic Church and Traditional Martial Arts in Indonesia 発表者 木村敏明 東北大学
  - Recently Discovered Documents of Nippon Shinrei Gakkai, a Japanese Mind Cure Movement 発表者 石原深予 神戸学院大学
  - Buddhism, Mind-Cure, and Nationalism: Fujita Reisai and his Breathing Techniques 発表者 栗田英彦 日本学術振興会
  - Modern Japanese Psycho-Spiritual Therapies and the Birth of Reiki Healing in the 1920s-1930s 発表者 平野直子 早稲田大学
  - コメンテーター 堀江宗正 東京大学
  - コメンテーター 赤井敏夫 神戸学院大学
  - 司会 GAITANIDIS, Ioannis 千葉大学
- 2016-02-13 第14回研究会「日本宗教史像の再構築に向けての準備体操」
  - 話題提供1 発表者 菊地暁 京都大学
  - 話題提供2 発表者 板井正斉 皇學館大学
  - 話題提供3 発表者 角南聡一郎 元興寺文化財研究所
  - 話題提供4 発表者 土居浩 ものづくり大学
  - 話題提供5 発表者 西村明 東京大学

- 話題提供6 発表者 林淳 愛知学院大学
- コメンテーター 永岡崇 日本学術振興会
- コメンテーター 大谷栄一 佛教大学
- 2016-02-27 第15回研究会 ワークショップ「日本宗教史資料整理の実際—日本心霊学会資料を素材として—」
  - 日本心霊学会資料の概要と整理上の注意点 発表者 石原深予 神戸学院大学
  - 本日の成果と今後の課題 発表者 栗田英彦 日本学術振興会
- 2016-03-05 第16回研究会「吊い、そして死者との共闘：川村邦光と『吊いの文化史』を読む」
  - 書評1 発表者 黛友明 大阪大学
  - 書評2 発表者 畑中小百合 大阪大学
  - 書評3 発表者 田中雅一 京都大学
  - リプライ 発表者 川村邦光 大阪大学
  - 司会 永岡崇 日本学術振興会

#### 8. 共同研究会に関連した公表実績

「特集：日本宗教史像の再構築—トランスナショナルヒストリーを中心として—」『人文学報』108 (2015.12) 2015年12月12-13日 International Workshop “Modernization, and Spiritual, Mental and Physical Practices: From Yoga to Reiki”

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	1	5 (1)				15 (1)			
学内(法人内)	1			1		4	4		
国立大学	6	7	1	1 (1)		30	5	5 (5)	
公立大学	2	2				10			
私立大学	20	30 (10)		10 (5)	10 (5)	150 (50)		50 (25)	50 (25)
大学共同利用機関法人									
独立行政法人等公的研究機関	2	2			2	10			10
民間機関	6	8 (2)				40 (5)			
外国機関	6	6	6			12			
その他		10				10			
計	44	70 (13)	7	12 (6)	12 (5)	281 (56)	5	59 (30)	60 (25)

※ ( ) 内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	10 (5)
国際学術誌に掲載された論文数	

※ ( ) 内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載

13. 次年度の研究実施計画

最終年度にあたる平成28年度は、成果報告書として日本宗教史研究に関わる重要概念の解説集を刊行することを目標に、関連するワークショップ・編集会議等を開催していく予定である。現段階では、近代化・世俗化概念を再検討するワークショップ、日本宗教史研究における歴史民俗学的アプローチの意義を問い直すワークショップ、新宗教を事例とした総力戦と宗教者の関わりを問い直すワークショップ、京都を事例として宗教団体と出版組織の関係を探るワークショップ、などを企画中である。

14. 次年度の経費

国内旅費	研究会参加費	開催回数 8 回 国内出張旅費 (延べ 40 人)	支出予定額 (800,000 円)
	一般旅費	国内出張旅費 (延べ 5 人)	支出予定額 (200,000 円)
海外旅費	渡航旅費	海外出張旅費 (延べ 人)	支出予定額
	招聘旅費	招待人数 (延べ 1 人)	支出予定額 (200,000 円)
謝金 (講演謝金、研究協力謝金、その他の謝金)			支出予定額 (150,000 円)
消耗品等経費		研究班ホームページ用サーバーレンタル料	支出予定額 (50,000 円)
その他			支出予定額
合計			1,400,000 円

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

研究活動の概要については逐次ホームページで公表するほか、2014 年度の成果については 2015 年度の『人文学報』特集号に掲載の予定である。